

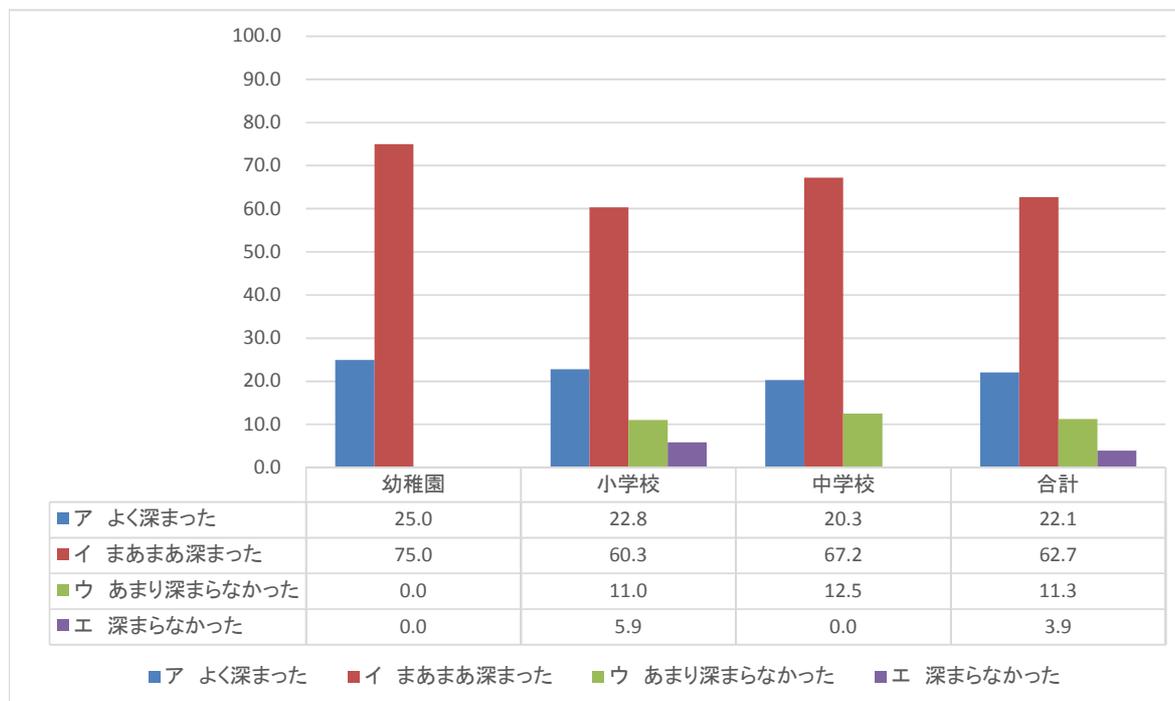
小中一貫教育に係るアンケート結果（教職員）

平成27年8月4日実施

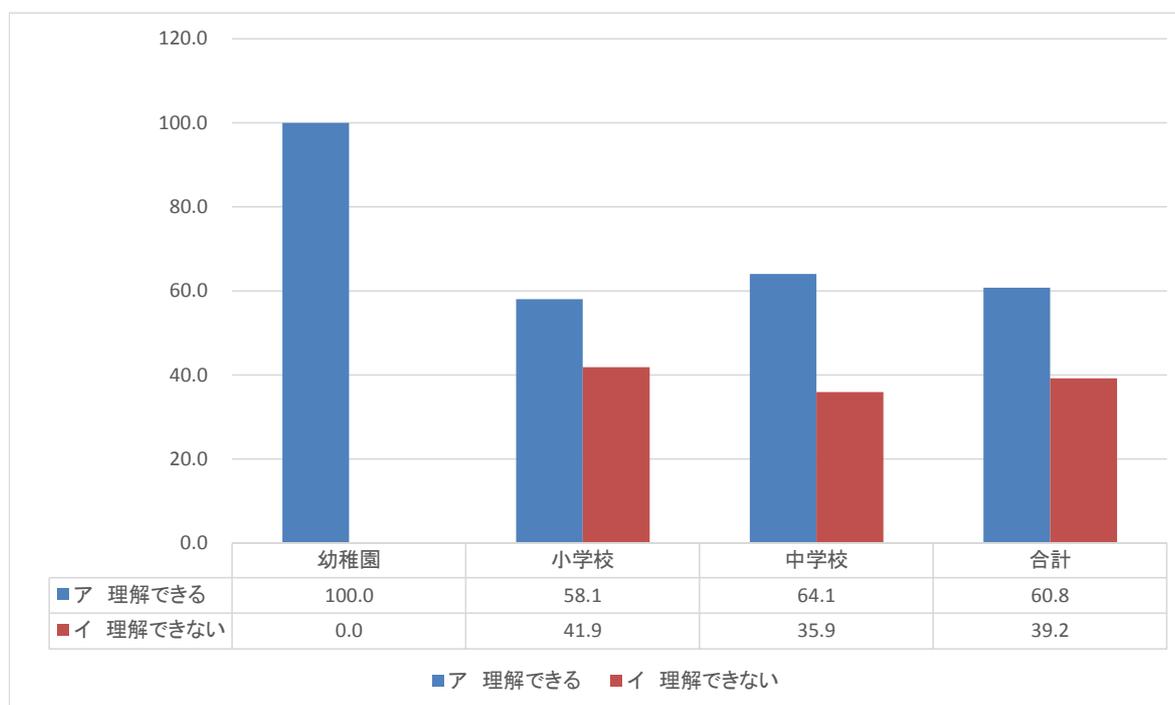
1 現在の所属について

ア 幼稚園 4名 イ 小学校 135名 ウ 中学校 64名

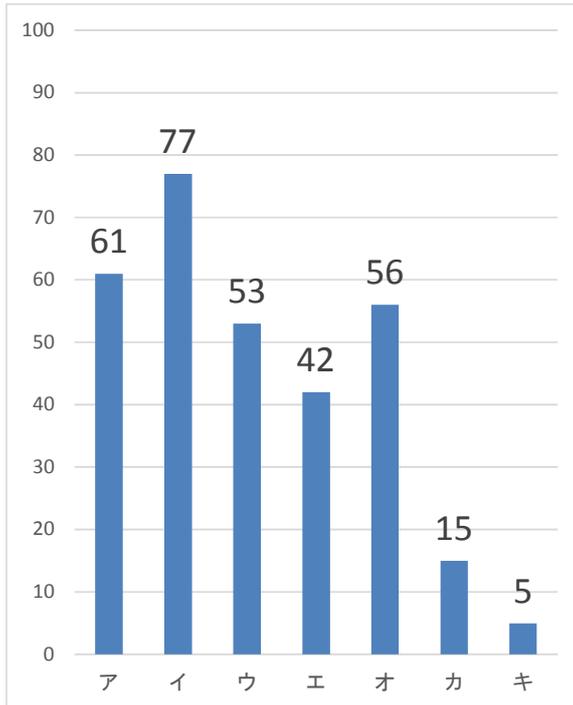
2 本日の講演により、小中一貫教育の意義や必要性について、理解は深まりましたか。(%)



3 加東市で小中一貫教育を推進することについて、あなたの考えはどちらですか。(%)



4-1 3でア「推進することについて理解できる」と回答した方は、どのような成果が期待できますか。(上位3つ)



ア 小学校での教科担任制や小中教員による複数指導等により、学習意欲の高まりや自主的に学ぶ態度の育成が期待できる。

イ 日常的な異学年交流により、中学生の自己肯定感や思いやりの心の醸成が期待できる。また、小学生が中学生を成長のモデルとしての「憧れの存在」として身近に感じることができる。

ウ 小中教員による日常的な見守りや情報共有により、生徒指導上の課題の未然防止や早期対応につながる。

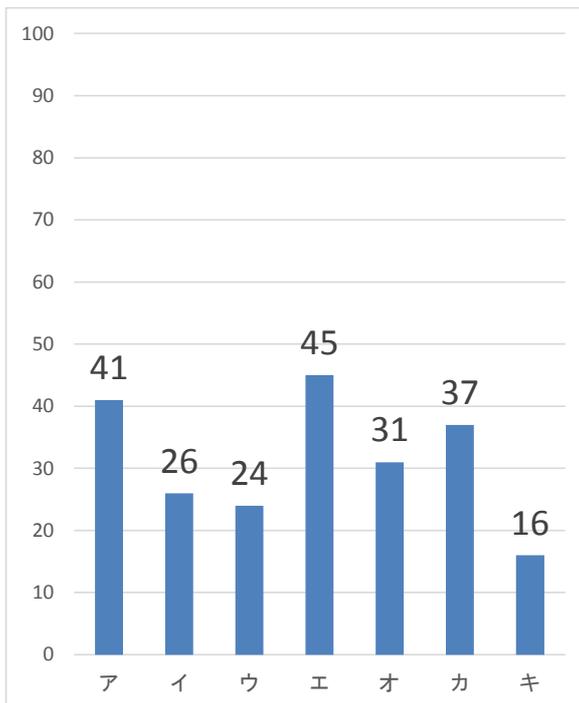
エ 発達段階に応じた学校行事等の工夫により、各発達段階でリーダー性が育まれるなど個性の伸長が図れる。

オ 9年間の系統性・連続性のある特別支援教育がさらに推進される。

カ 地域人材や地域資産の活用による体験学習がさらに幅広く実施され、保護者や地域住民との連携した教育活動が推進される。

キ その他

4-2 3でイ「推進することについて理解できない」と回答した方は、どのようなことが課題と考えますか。(上位3つ)



ア 小中教員の相互乗り入れ授業など授業準備や研修等で教職員の負担が増え、多忙になる。

イ 授業や学校行事等9年間の新たな教育課程の編成等事前の準備に労力が費やされる。

ウ 小学校と中学校では、指導観等に違いがあり、小中学校の教職員間の共通認識の醸成が困難である

エ 集団の規模が大きくなり、個別指導を十分に行うことが難しくなるなど、小規模集団ならではの良さが失われる。

オ 人間関係の固定化を招いたり、中学生の問題行動が小学生に影響したりするなど、生徒指導上の課題が増える。

カ 校区が広がることで、学校教育に対する保護者や地域の理解や協力関係が希薄になる。

キ その他

【クロス集計】(人)

本日の講演により、小中一貫教育の意義や必要性について、理解は深まりましたか。

×

加東市で小中一貫教育を推進することについて、あなたの考えはどちらですか。

